

2011 年

## 10月22日(土曜日)女子美術の力で織物の再生へ！ 丹後ファッションウィークと女子美術大学との連携協定式

女子美術大学の横山学長、小林部長、羽太研究所長、また大勢の学生の皆さんはじめ美大の皆さん、ようこそ京丹後へ、心から歓迎をしています。

我々、丹後の産地や行政をあげて丹後ちりめんの再生を図ろうとファッションウィークという組織を作ってがんばっていますが、日本の美術界に素晴らしい人材を輩出して来られている女子美大の皆さんとこうしてご縁をいただき、とてもありがたく思っています。

丹後は昔から女性が活躍していました。古代天皇家の第9代の開化天皇、第11代の垂仁天皇には丹後から御后・御妃がお入りになられていたり、日本の中では珍しい女王の古墳といわれるような墳墓があったり、また、丹後七姫といいますが、小野小町、羽衣天女、静御前、ガラシャ夫人、間人皇后などの伝説が残されていたり、本市出身の野村克也さんも日本一の女房役の活躍をされたり、丹後では、女性や女性的な役割の活躍が目だっています（もちろん男性の偉人もたくさん輩出しています。）。

このような歴史の薫陶からは、古代からの歴史をもつ丹後の織物文化、産業も、女子美大の皆さんが未来の織物の再生のため、将来“丹後八姫”といわれるような大活躍をしていただけないのではないかと密かに期待をしたい思いでいます。試行錯誤の過程はつきものですが永くお付き合いを賜りながら、時間を重ねて若い新鮮なエネルギーとともに喜び合える新時代の宝を発掘して磨き育んでいただくことができれば光栄です。